

主体的・対話的で深い学びを実現する単元構想（商業科「簿記」）

単元名： 2年生 第13章 手形の取引（全7時間）

単元の目標
知識及び技術 <ul style="list-style-type: none"> 手形の振り出し、決済、裏書譲渡、割引の記帳を正確に行うことができる。 手形記入帳への記帳を正確に行うことができる。
思考力、判断力、表現力等 <ul style="list-style-type: none"> 小切手と手形の違いを判断することができる。 約束手形の役割・必要性を判断することができる。 為替手形の仕組みを深く考察することができる。
学びに向かう力、人間性等 <ul style="list-style-type: none"> 手形の仕組みや必要性を実際のビジネスに置き換えて考えることができる。

既習内容	生徒の実態と教師の願い
(2年1学期) <ul style="list-style-type: none"> 現金・預金などの取引 現金に関する記帳 当座預金と小切手の仕組みの理解 	(実態) 教育課程の編成上、「ビジネス基礎」を履修していないため、ビジネスに関する基本的知識が不足している。また、「簿記」の仕組みを暗記してしまう傾向があり、取引の内容をしっかりと理解していない。 (教師の願い) 約束手形(二者)、為替手形(三者)の取引の仕組みを理解した上で、記帳ができるようになってほしい。

主体的・対話的で深い学びの視点に立った単元構想
<p>本単元では、手形の仕組みや必要性を考えさせ、小切手との違いを理解させることが重要である。手形は小切手と同じように振り出すが、支払期限の違いや裏書き、割引などの処理がある。したがって、手形の役割を考察させることで深い理解につながり、正確な仕訳や手形記入帳への記帳ができるようになることを考えた。また、小切手の記帳と対比させることで、手形取引の理解を確実なものにさせたい。そして、既習内容を生かして同じような有価証券でも処理方法や決済方法が異なることに気付かせたい。</p> <p>授業では生徒が視覚的に理解しやすいように、ICT機器を活用して授業で使用するプリントと同じものをスクリーンに投影して解説する。また為替手形の記帳において、3人のグループを作り、それぞれに振出人、受取人、名あて人の役割をもたせて為替手形の仕組みを考察させる。そして、どのような債権・債務がどの企業に発生するかを、カードを用いて考えさせる。</p> <p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小切手の取引が混在した課題を設定し、既習内容の振り返りをさせる。(第7時) <p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小切手の特徴の再確認のために、グループ学習を通して既習内容をまとめさせる。(第1時) 手形についてまとめた動画を用いて、手形の役割や特徴を確認させる。そしてグループ学習を通して、手形と小切手の共通点や違いを、まとめさせる。(第3時) ワークシートを用いて、小切手か手形のどちらを振り出すべきかをグループで話し合わせる。(第3時) 為替手形の記帳を、グループ内で振出人、受取人、名あて人の三者に分かれて行い、それぞれの立場において、どのような債権・債務が発生するかを考察させる。(第4時) <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケース教材を用いて、ビジネスの現場で手形の割引や裏書きの必要性を考察させる。(第5時) 不渡りを出さないために、手形記入帳の必要性を考えさせる。(第6時) ビジネスの現場で小切手や手形が活用されている動画を用いてそのメリットやデメリットを考察させ、経営者の観点から判断する活動を設定する。(第7時)

単元計画										
段階	小単元の目標	時	本時の目標	学習活動	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の工夫	育成を目指す資質・能力や目指す生徒像				
復習	・小切手と手形の特徴を復習する。	1	・小切手と手形の特徴を確認する。	・インターネットを活用し、小切手と手形を使用する際の条件等について調べる。	対小切手と手形の特徴を個人で調べさせる。また、グループ学習で理解を深めさせる。	・自分の考えを発言できる。				
基礎基本の学習	・基本的な手形の仕訳を理解する。	2	・基本的な手形の仕訳を理解する。	・約束手形の基本的な問題を解く。 ・為替手形の基本的な問題を解く。						
	・為替手形の記帳、手形の割引、裏書の記帳方法を理解する。	3	・為替手形の流れを体験させ、仕訳を理解する。	・為替手形の流れを確認し、為替手形の記帳方法を学ぶ。 ・為替手形を引き受けた際の記帳を学ぶ。	対グループで振出人、受取人、名あて人の三者に分かれて為替手形の取引を行わせることで、為替手形の記帳方法の理解を深めさせる。	・振出人、受取人、名あて人の三者の立場で為替手形の流れを考えることができる。				
		4								
		5					・手形の割引、裏書の記帳を理解する。	・手形の割引、裏書の基本的な問題を解く。	深資金繰りを考えて、手形の割引、裏書が行われていることを理解させる。	・割引と裏書の手続きを理解した上で、問題に取り組むことができる。
		6					・手形記入帳の記帳方法を理解する。	・資金繰りを考えるためには、手形記入帳が必要であることを理解し、記帳方法を学ぶ。	深手形記入帳の意義を考察させながら記帳方法を学習させる。	・手形記入帳の意義を考察することができる。
発展学習	・小切手と手形を振り出した際の違いを考察する。	7	・小切手と手形を振り出した際の違いを考察する。	・小切手と手形が混在した問題を解く。	対既習内容の振り返りをしながら解答させる。 深ビジネスの現場で手形と小切手が利用されている動画を用いて、違いを考察させる。	・小切手と手形の違いを実際のビジネスの現場での利用の観点から考察することができる。				